

2020.6.14

キリストの聖体

皆様、こんにちは、
カトリック府中教会、アンドレアです。

多くの国々では、本日、「キリストの聖体」の祭日が祝われます。私たちは信仰の中心であるこの神秘にささげられた祭日を、毎年喜びのうちに祝います。それにより私たちは、救いの糧としてご自分をささげたキリストを賛美していることを、十分に表すことができるのです。

聖ヨハネによって記された本日の福音は、「いのちのパン」に関する説教（6・51-58）の一部です。イエスは言います。「わたしは、天から降って来た生きてパンである。…わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである」。この箇所が言おうとしていることは、永遠のいのちの糧として御父が、この世にイエスを派遣したからこそ、イエスはご自身を、ご自分のからだをいけにえとしてささげてくださったということです。聖体の神秘は、この世にいのちを与えるためにささげられたイエスのからだの神秘です。この糧によって養われる人は皆、イエスのもとにとどまり、イエスを通して生きています。イエスと一つになることは、イエスのもとにとどまり、御子の子となることです。

イエスは聖体のうちに、歴史の巡礼者であるわたしたちに寄り添い、わたしたちの信仰、希望、愛をはぐくみ、試練の中で私たちを励まし、正義と平和を求める生活の中で私たちを支えてくださいます。こうした御子の励ましは、いたるところにあります。

イエスは聖体を通して、霊的な力としてご自分を与え、私たちがご自分の命令——神が私たちを愛してくださるように、互いに愛し合いなさい——を果たし、もっとも弱い人、貧しい人、困窮している人をはじめとするすべての人の要求を受け入れることのできる共同体を築けるよう助けておられます。

イエスの聖体によって養われることは、イエスに信頼して自らをゆだね、イエスによって導かれるままにまかせることも意味します。それは「自分」自身の場にイエスを受け入れることです。このように、聖体の交わりによってイエスから無償で受けた愛は、聖霊の働きを通して、私たちの神への愛と、日々の生活で出会う兄弟姉妹への愛をはぐくみます。聖体によって養われ、私たちはさらに具体的な形で、キリストの神秘体となることができます。

いのちのパンであるイエスとつねに一つであったおとめマリアの助けによって、私たちが聖体の美しさを見いだし、信仰をもって聖体にはぐくまれ、神との交わり、兄弟姉妹との交わりのうちに生きることができますように。

